

令和4年度東北町経営基盤強化推進事業費補助金事業の実施状況及び効果の検証

対象	導入機械等	効果の検証
経営体1	農業用マルチローターの資格取得	今回、農業用ドローンの資格取得を行い、同時に農業用ドローンの導入支援も受けた。今後、長芋防除、キャベツ防除に利用していく。
経営体2	フォークリフト	既に同規模のフォークリフトを所有しているが、今回導入機械は、主に大根の洗浄選別での荷下ろしに使用するものである。既存のフォークリフトと併用で使用することで洗浄・選別の省力化及び作業能率向上が図られた。効率化が図られたことにより、人員削減効果及び接触機会を減らす効果があった。
経営体3	農業用マルチローター	今回新たに農業用マルチローターを導入したことで、水稻の防除、長いもの防除、長いもの追肥を行った。このことで、今まで雨上がりすぐには長いもの防除が行えなかったが、マルチローターでは行えるため品質向上効果が図られた。また、水稻防除だったが、マルチローターでは行えるため品質向上効果が図られた。また、水稻防除は委託していたが自身で行うことができるのでコスト低減効果が図られ、人との接触機械を減らす効果もあった。長いもの追肥も行えるため、人員削減効果及び省力化が図られた。
経営体4	ホイールトレンチャー	今回新たに導入したホイールトレンチャーは旧式に比べ作業速度が上昇したため、省力化及び作業能率向上が図られた。
経営体5	農業用マルチローター	今まで、水稻の防除は動力噴霧器を使用していたが、今回新たに農業用マルチローターを導入したことで、大幅な省力化及び作業能率向上が図られた。また、使用水量減によるコスト低減、適期防除を行えることにより品質向上効果が見込める。また、人員削減効果も得られた。
経営体6	マニュアルワゴン	今回導入したマニュアルワゴンは大型で、運搬回数の低減他、農地への有機物投入により地力向上が図られ、化学肥料の使用量低減が図られた。
経営体7	船外機（115ps）	今まで同馬力帯の船外機を利用していたが、今回導入機械は最新式のものになったことで、トルクが向上し低回転でも余裕をもって作業が可能になった。そのため結果として燃費が向上したことでコスト低減効果が得られた。また、船に持ち込む燃料の量が減ったことで省力化及び作業能率向上が図られた。
経営体8	畔塗機	今までの畔塗機は高さの調整ができなかったが、新しい畔塗機は調整できるため作業能率向上及び省力化が図ら

		れた。
経営体 9	大根引抜機	今回導入の大根引抜機により、今まで手作業で行っていた大根収穫の作業能率及び省力化が図られた。
経営体 1 0	トラクター (33ps)	今回導入したトラクターによって、トラクターが2台となり、アタッチメント交換の省力化、2台の作業により作付面積の拡充が図られた。
経営体 1 1	ばれいしょ収穫機	従来のじゃがいも収穫機は掘り取り作業中機械で皮がむけたり、キズがついた。また、じゃがいもが地面に置かれるので1つずつ手で拾いながら、コンテナを引きずり収穫しなければならなかった。今回導入のじゃがいも収穫機は、掘り取り中皮むけがなく、じゃがいもの選別、コンテナ入れを機械の上ですべて行える。作業能率向上が図られた。品質、作業能率が向上したことで人員削減が可能となり、コスト低減が図れた。
経営体 1 2	農業用マルチローター	今まで水稻防除は、委託か動力噴霧器で行ってきたが、今回農業用マルチローターを導入したことにより、適期防除による品質向上効果が得られると考えられる。また、動力噴霧器での防除に比べ、人員削減効果及び接触機会の減少と、省力化及び作業能率の向上が図られた。
経営体 1 3	農業用マルチローター	今まで、長いも・ごぼう・キャベツの農薬散布はそれぞれの専用機械を用いて行っていたが、今回導入のドローンにより作業能率向上が図られた。また、人員削減効果及び接触機会を減らす効果もある。さらに、降雨により大型機械では圃場に入れない場合でもドローンであれば防除可能な為品質向上効果もあると考えている。
経営体 1 4	トラクター (35ps)	今まで 28ps のトラクターを使用していたが今回導入機械は 35ps となったことで馬力があがり作業速度が向上した。また、キャビン付きとなったことで冬の収穫作業も快適に行うことができ、P T Oの自動機能がついたことで省力化が図られた。
経営体 1 5	ゴボウハーベスター	今回、導入のごぼう収穫機はトレーラー牽引式で収穫したごぼうの選別及びコンテナ入れをトレーラーの上ですべて行える。今まで使用していたごぼう収穫機は収穫物がまとめて地面に置かれるのみだったため作業能率向上及び省力化が図られた。また、作業能率が向上したことで人員削減が可能となり、コスト低減も図られた。
経営体 1 6	ラジコン動噴	今回導入のセット動噴は無線でホースを巻き取りできるので省力化ができた。
経営体 1 7	スーパー S ポール	今回導入のスーパー S ポールは FRP 素材で軽量なうえに耐久力が高く、作業能率が向上した。また、作業能率向

		上に伴い、人員削減を行え、人との接触機会を減らす効果が得られた。また、雇用費を抑えられることによりコスト低減効果が図られた。
経営体 1 8	ニンニクハーベスタ	今回導入のニンニクハーベスタは茎処理と収穫が同時に行えるため、茎処理作業が省略されたことで人員削減が可能となり、コスト低減が図られた。また収穫作業終了後にニンニクマルチ回収が可能になったため収穫作業に専念することができ、作業効率が向上した。
経営体 1 9	ごぼう収穫機	今回導入のごぼう収穫機は、今まで使用していたごぼう収穫機と異なりドロッパーが追加されている。そのため、収穫したごぼうを一定量ごとに自動的におろしてける為作業能率向上、収穫物を集める人員の削減及び省力化等が見込まれる。
経営体 2 0	肥料散布機、つる巻き機、ロータリーカルチ	肥料散布機は、均一に肥料散布され、手作業に比べ作物の揃いがよくなる。つる巻き機はながいもの茎葉処理作業が軽減される。ロータリーカルチは、ごぼうの中耕作業や培土作業能率が向上される。
経営体 2 1	トラクター (70ps)	今回導入のトラクターは 49ps のトラクターのものから 70ps のものにした。以前のトラクターはタイヤのものだったが、今回導入トラクターはハーフクローラ式で主に水稻の代掻きを使用する。以前まではタイヤのものだったため、かご車輪を装着し代掻きを行っていたが、今回導入トラクターは不要となったため、省力化及び作業能率向上が図られた。また、高出力となったことでも作業能率向上となり、コスト削減に繋がった。
経営体 2 2	ニンニクハーベスタ	今まで手でにんにくの収穫を行っていたが、今回収穫機を導入したことで、省力化及び作業能率向上、人員削減効果が得られた。またコスト低減効果も図られた。
経営体 2 3	乳量計付自動離脱装置	今回導入の搾乳機は、ブルートゥースでの通信が可能で、乳量計が自動で乳量を計算し、設定した搾乳量で自動で停止する。また、個体ごとの乳量も一括管理が可能のため、省力化及び作業能率向上、人員削減効果が図られ、コスト低減効果もある。
経営体 2 4	肥料混合散布機	1 度に改良剤、配合肥料等数種類を混和して散布することにより作業の効率化を図る。
経営体 2 5	自動操舵システム	自動操舵を取り付けることにより、肥料散布間を一定に保ち、均一に散布することができる。そのた色々な機会作業においても応用できる。
経営体 2 6	にんにく乾燥機	今回導入のにんにく乾燥機はコンパクトで古い乾燥機に比べ省エネになっている。また、シート乾燥を 1 基分の

		規模拡大が可能となる。
経営体 2 7	フィールドロータリー、スーパー S ポール	今回新たにフィールドロータリーを導入したことで、既存のロータリーより砕土性があがった。そのことにより、作業回数が減少しコスト低減及び省力化及び作業能率向上が図られた。スーパー S ポールについては、鉄パイプに比べ軽量化になったことで、作業能率向上、人員削減効果があった。
経営体 2 8	農業用マルチローターの資格取得	今後農業用マルチローターを導入した際、雨天後の散布や雪上への融雪剤の散布等、天候に左右されない作業を行うことができる。また、GPS 管理による農薬散布でムラやコストを抑えることが可能。
経営体 2 9	スーパー S ポール	スーパー S ポールについては、鉄パイプに比べ軽量化になったことで、作業能率向上、人員削減効果があった。
経営体 3 0	農業用マルチローターの資格取得	今回農業用マルチローターの資格を取得し、同時に農業用マルチローターの導入も行った。今後は、導入した農業用マルチローターを水稲、長いものをメインに使用し省力化及び作業能率向上、人員削減につなげていく。
経営体 3 1	農業用マルチローター	今回農業用マルチローターの資格を取得し、同時に農業用マルチローターの導入も行った。今後は、導入した農業用マルチローターを水稲、長いものをメインに使用し省力化及び作業能率向上、人員削減につなげていく。
経営体 3 2	にんにく用除湿器、巻き上げ機	にんにく除湿機は雨が降り続いた場合乾燥効率がよく、灯油の消費が少なくなった。また、乾燥の出来上がりが良く品質向上に繋がった。 巻き上げ機は従来のものに比べて作業能率が上がったことから 1 人でも漁ができるようになった。
経営体 3 3	ロールベールカッター	今までは、輸入乾草を TMR センターへ委託し、TMR 飼料へ投入していたが、今後は国産粗飼料を自家で細断し、TMR 飼料へ投入できるので、安価な国産粗飼料と TMR センターが行っていた投入作業が節約できるため、飼料のコストの低減ができる。
経営体 3 4	スチールコンテナ	今回新たにスチールコンテナを導入したことにより、従来のコンテナよりも 1 度に長いものを入れられる量が増えたため、省力化及び作業能率向上が図られた。また、作業能率向上が図られたことにより、人員削減効果も得られた。
経営体 3 5	ロールカッター	今回導入のロールカッターを使用することで牧草裁断の省力化及び作業能率向上が図られた。
経営体 3 6	ハタカン、スーパー S ポール	今回導入のハタカンは長いも植付前の畝間の中耕を行うために導入した。この機械を導入することにより、トラ

		クター等で踏み固められた畝間を耕すことで長いも植付後に行う培土作業の効率化及び作業能率向上が図られる。また、畝の高低が一定となることで大雨が降っても低い畝へと水が流れることを軽減することで品質向上も図られると考える。スーパーSポールについては、従来の鉄パイプよりも軽量となったことで省力化及び人員削減効果が得られた。
経営体37	トラクター (24ps)	今までこかぶの播種作業はタイヤの小型トラクターで行っていたが、今回導入機械はハーフクローラ仕様であり、傾斜地でも安定して作業が行えかつ作業速度も向上した。そのため、省力化及び人員削減効果がある。
経営体38	搾乳ユニット	今回新たな搾乳ユニットを導入したことで、乳頭へのダメージが最小限となり、牛のストレスが少なくなった。また、自動での離脱機能が付いたため省力化及び作業能率の向上が図られた。また、人員削減にもつながった。
経営体39	ライホーラドラム	今まで、シジミ漁は手作業で行っていたが、今回導入機械により機械化を図ることができ、漁の省力化及び作業能率向上がはかられた。
経営体40	マニユアスプレッダー	今まで、堆肥散布は共同利用していたが、自己所有のものはなかった。そのため、作業適期になると共同利用者と競合となり、作業が遅れることがあった。また、今回導入機械は2tの積載能力があり、共同利用機械は1.5tの積載能力のため1度に運べる堆肥の量も増加したため、省力化及び作業能率向上が図られた。
経営体41	セット動噴	今回導入機械は以前の動力噴霧器に比べ噴霧圧力が向上したことにより、作業時間短縮、それに伴う人員削減及びコスト低減効果が図られた。
経営体42	ロータリー	今回導入のフィールドロータリーは、施行後の土の細粒性が良く、作物播種後の発芽率が上がった。
経営体43	中耕ディスク、ハキハキくん、土壤消毒機	今回導入の中耕ディスクは、けん引で作業可能なため燃料削減効果があり、コスト低減効果が見込まれる。また、作業速度も従来の倍以上で行えるため省力化及び作業能率向上が図られた。ハキハキくんに関しては、にんにくの覆土が一定で行えるため品質向上効果及び、人員削減効果が得られた。土壤消毒機に関しては、従来のものと併用で使用することで作業効率向上が図られた。
経営体44	ごぼう収穫機	今回導入のごぼう収穫機はトレー式で従来のものとは異なり収穫物をトレー上で選別することができるため、省力化及び作業能率向上が図られた。また、人員削減も図られたことでコスト低減も図られた。

経営体 4 5	自動操舵システム	自動操舵システムを導入したことで、植え溝掘り作業及び収穫作業の省力化及び作業能率向上が図られた。また、収穫作業の速度が向上したことで人員削減効果と接触機会の減少が図られ、それに伴い、コスト低減効果が図られた。
経営体 4 6	スーパー S ポール	スーパー S ポールについては、鉄パイプに比べ軽量化になったことで、作業能率向上、人員削減効果があった。
経営体 4 7	米乾燥機	米の乾燥調整が自動で燃費も良く、仕上がりも早いいため省力化に繋がった。
経営体 4 8	農業用マルチローターの資格取得	今回、農業用ドローンの資格取得を行い、今後 3 年以内に農業用ドローン導入を行う予定。水稲防除作業等に使用する計画。
経営体 4 9	ライナーハロー、中耕ロータリー	今回新たに導入したライナーハローは 2.8m 幅で、既存の代掻きハローは 2.6m 幅のため省力化及び作業能率向上が図られた。また、中耕カルチについては、既存で同規模のものを保有しているが、規模拡大に伴い管理作業を 2 台体制で行うため導入した。このことにより、適切な管理作業が行え品質向上効果が得られると考える。
経営体 5 0	トラクター (113ps)、フロントローダー	今回新たにトラクター及びフロントローダーを導入したことにより、各種作業が省力化及び作業能率向上が図られた。
経営体 5 1	農業用マルチローターの資格取得	今回、農業用ドローンの資格取得を行い、今後 3 年以内に農業用ドローン導入を行う予定。水稲防除作業等に使用する計画。
経営体 5 2	ニンジン洗浄機	今回新たにニンジン洗浄機を導入し、今まで手洗いでニンジン洗浄を行っていたが今回導入機械により、飛躍的に省力化及び作業能率向上が図られた。
経営体 5 3	農業用マルチローターの資格取得	今回、農業用ドローンの資格取得を行い、今後 3 年以内に農業用ドローン導入を行う予定。水稲防除作業等に使用する計画。
経営体 5 4	種いも選別機	今回種いも選別機を導入したことで、今まで手作業で行っていた長いもの種いも選別作業の省力化及び作業能率向上が図られた。また、人員削減も行うことができ、且つ手作業で選別するよりも精度よく種いも選別が可能になったことで品質向上効果も得られた。
経営体 5 5	スチールコンテナ	スチールコンテナを導入したことにより、長いも・ごぼうの収穫物を効率的に入れることができ、従来のサンテナに比べ省力化及び作業能率向上が図られた。
経営体 5 6	管理機、スーパー S ポール	管理機については、今まで 5.0ps のものを使用して長いもの畝作りを行っていたが、今回導入機械は 8.5ps で出

		力が上がったことで作業能率が向上した。また、出力が大きくなったことで機械の重量も重くなったものの、2輪になったことで作業時の安定感と取り回しは楽になったため省力化に繋がった。スーパーSポールについては、従来の鉄パイプに比べ重量が軽くなったため作業能率向上及び省力化が図られ、作業人員の減少及び接触機会を減らす効果が図られた。
経営体57	ロータリー、スーパーSポール	スーパーSポールについては、鉄パイプに比べ軽量化になったことで、作業能率向上、人員削減効果があった。ロータリーについては、今までながいもの防除畝の耕起は、1.2mのロータリーで行っていた。防除畝は3.0m幅で今までは3回ほどロータリーを掛けていたが今回導入のロータリーは1.8mで2回ほどで済む。そのため、省力化及び作業能率向上が図られ、かつコスト低減にも繋がった。
経営体58	にんにく収穫機	今回導入のにんにく収穫機によって、作業員の削減と品質向上のために作物に合った収穫日を設定できるようになります。また、作業工程により労働力が楽になり作業能率及び省力化が図られた。
経営体59	カットロータリー	今回導入のカットロータリーは表層の砕土効果が高くスパイラルローラーによる転圧により土の乾燥を防ぎます。また、通常のロータリーと違い抵抗が少ないため作業スピードがあがります。今後は、大根収穫後の均平ロータリー掛け、長いも、ごぼうの肥料散布後に使用します。
経営体60	にんにく植付機	今まで、手でにんにくの植付を行ってきたが、今回導入機械によって作業能率向上省力化及び人員削減効果が得られた。また、植付深さも一定になることから品質についても一定となり品質向上効果が得られると考える。
経営体61	農業用マルチローター	今回導入したマルチローターにより、肥料及び薬剤散布が少人数かつ短時間でより多くの面積に散布できるようになり、大幅な作業効率向上につながった。また、効率向上により人員削減が可能となりコスト低減も図られた。
経営体62	スーパーソイル	今まで水稻の耕起作業はロータリーを使用していたが、今回導入機械を粗耕起で使用することで、作業速度が飛躍的に向上したことで、省力化及び作業能率向上が図られた。
経営体63	トラクター	今まで同馬力帯のトラクターを利用していたが、今回導入トラクターは、作業機のPTOのアップオフモードがついており、作業機が上がった状態だと自動でPTOが停止

		される。また、旋回のアシスト機能が付いており、旋回時は自動でエンジン回転を落とし、適切な作業速度になるため、省力化及び作業能率向上、燃費向上に伴うコスト低減が見込まれる。
経営体 6 4	にんにく収穫機	今まで手作業で収穫を行っていたが、今回導入機械により作業能率が向上したことで人員削減効果及び接触機会の減少が図れた。また、雇人費の減少によりコスト低減が図られた。
経営体 6 5	キャリー動噴	今回導入した自走式キャリー動噴は今まで使用していた動噴と違い、農薬散布の時間の短縮、ホース収納時の労力軽減など作業能率向上が図られた。
経営体 6 6	肥料散布機	今まで使用していたライムソワーは容量が 110L だったが、今回導入機械は 140L となったため、省力化及び作業能率向上が図られた。また、散布量調整については手動だったものが、電動式となったことで作業能率向上が図られた。
経営体 6 7	管理機	今まで、長いも用管理機でネギの中耕を行っていたが、今回導入機械はネギ専用機械のため省力化及び作業能率向上が図られた。
経営体 6 8	馬鈴薯収穫機	今回導入の馬鈴薯収穫機は、自走式で乗ったまま掘取・選別・コンテナ収納が行える。これまでは、トラクターに収穫機を接続し掘取作業を行い、振るい落とされた収穫物を選別、コンテナ収納する作業だったため、作業能率及び省力化が図られた。また、作業能率向上したことで人員削減可能となり、コスト低減も図られた。
経営体 6 9	水稻播種機	今まで使用していた水稻播種機は中古のもので 200 箱/時程度での播種だったが、今回導入機械はカタログ値で 280~330 箱/時となっており、実際の作業でも 250 箱/時程度で作業が行えるため、省力化及び作業能率向上が図られた。そのため、人員も 1 名削減することができ、且つコスト低減に繋がった。
経営体 7 0	センター掘り機	今回導入したセンター掘りは、以前のものに比べ少ない力で掘り上げ可能な為作業速度が向上した。
経営体 7 1	にんにく収穫機	ニンニク収穫機を導入したことで、省力化及び作業能率向上が図られた。従来のトラクター直送式の収穫機に比べ人員削減と接触機会の減少が図られた。また、それに伴い、コスト低減が図られた。
経営体 7 2	農業用マルチローターの資格取得	今回、農業用ドローンの資格取得を行い、今後 2 年以内に農業用ドローン導入を行う予定。水稻防除作業等に使用する計画。

経営体 7 3	農業用マルチローターの資格取得	今回、農業用ドローンの資格取得を行い、今後 3 年以内に農業用ドローン導入を行う予定。水稻防除作業等に使用する計画。
経営体 7 4	自動操舵システム	今回自動操舵システムを導入したことで長いも収穫の省力化及び作業能率向上が図られた。また、植え溝掘時の省力化も図られた。さらに、収穫速度が上がったことで、人員削減効果及び人との接触機会の減少効果も得られた。
経営体 7 5	トレーラー	今までトレーラーは必要時に借用していたが、今回導入したことで作業日を気にせずけん引作業ができ作業能率向上が図られる。
経営体 7 6	サイバーハロー	今回導入のサイバーハローは 4.5m のもので、以前まで使用していたものは 2.6m のものだったため、作業幅が大きくなった。そのため、省力化及び作業能率向上が図られた。
経営体 7 7	米乾燥機	今回導入の乾燥機は、以前まで使用していたものと同じ大きさのものだが、遠赤外線での乾燥機能が付いたため乾燥時間が少なく済む。そのため、省力化及び作業能率向上が図られ、かつコスト低減及び品質向上効果が得られた。
経営体 7 8	ごぼう除草機、スチールコンテナ	今回導入ごぼう除草機は従来の除草機に比べ作業速度が向上したことで、省力化及び作業能率向上が図られた。また、作業能率が向上したことで手での除草作業回数が減ることが予想され、コスト低減効果も図られた。スチールコンテナについては、従来のコンテナに比べ多く野菜が詰められるため省力化が図られた。
経営体 7 9	水稻フレコンバックスケール	今回水稻フレコンバックスケールを導入したことにより、今まで 30kg の紙袋を手作業で袋詰めしていたが、フレコンバックを利用でき作業能率及び省力化が図られた。また、作業能率向上したことで人員削減が可能になった。
経営体 8 0	トラクター (57ps)	今回導入トラクターは、廃棄予定と同馬力のトラクターだが、PTO の自動機能が追されたことで、作業時の燃費向上が見込まれる。また、作業切替ボタンが追加されたことで、作業時と旋回時のエンジン回転数、車速を設定したものに變更できるため省力化及び作業能率向上が図られた。また、廃棄したトラクターは旧型のため毎年メンテナンスコストも多くかかっていた。
経営体 8 1	ローダー	今回導入ローダーは、他補助金で導入したトラクターに取り付けするローダーで、今までは 80ps トラクターだっ

		たため、持ち上げ揚力が上がったことにより肥料等の積み下ろしの作業効率向上が図られた。また、バケットの幅も広がったことにより長いも収穫時の整地作業の省力化及び作業能率向上が図られた。
経営体 8 2	田植機	今まで使用していた田植機は 30 年以上前の型のため、植付部分の前にローター機能がなかった。今回導入機械はローター機能がついたため、タイヤ跡が残る枕部分も手作業で均す必要がなくなったため、省力化及び作業能率向上が図られた。また、側条施肥機を追加したため、省力化及び作業能率向上が図られた。上記により、人員削減も可能となり、コスト低減も図られた。
経営体 8 3	自動操舵システム	自動操舵システム導入により、大幅な省力化効果が図られた。また、ごぼう収穫作業の作業速度が大幅に向上したことで、人員削減及び接触機会の減少効果が図られた。また、収穫作業時に収穫物を傷つけることが減少したことにより品質向上効果も図られた。
経営体 8 4	自動操舵システム	自動操舵システム導入により、大幅な省力化効果が図られた。また、長いも収穫速度が向上したことにより、人員削減効果及び接触機会の減少が図られ、コスト削減に繋がった。また、自動操舵システムを利用し収穫を行うことで収穫物を傷つけることが減少し品質向上に繋がった。
経営体 8 5	自動操舵システム	自動操舵システム導入により、大幅な省力化効果が図られた。また、ごぼう収穫作業の作業速度が大幅に向上したことで、人員削減及び接触機会の減少効果が図られた。また、収穫作業時に収穫物を傷つけることが減少したことにより品質向上効果も図られた。
経営体 8 6	自動操舵システム	自動操舵システム導入により、大幅な省力化効果が図られた。また、ごぼう収穫作業の作業速度が大幅に向上したことで、人員削減及び接触機会の減少効果が図られた。また、収穫作業時に収穫物を傷つけることが減少したことにより品質向上効果も図られた。
経営体 8 7	にんにく植付機	今回導入のにんにく植付機は、乗用で 2 人だけで作業ができ、植付深さが一定になり、植付間隔も調整ができる。今までの人手での植付では、人手を多く使い、浅植えになり、収穫機にはにんにく玉の割れが多くみられたので、品質向上と人員削減が可能となった。また、作業能率向上したことでコスト低減、労働時間削減によって規模拡大も図られた。
経営体 8 8	大根引抜機	今まで大根収穫は手作業で行っていたが、今回大根引抜機を導入したことにより大幅な省力化及び作業能率向上

		が図られた。また、それにより人員削減も可能となり人との接触機会が減少した。
経営体 8 9	にんにく収穫機	今回ニンニク収穫機を導入したことで、省力化及び作業能率向上が図られた。また、今までの収穫機に比べ作業人員が大幅に減ったため、人員削減効果と接触機会の減少とそれに伴う、コスト低減も図られた。
経営体 9 0	ホイールトレンチャー	今回導入のホイールトレンチャーは2連で今まで使用してきたものは1連のものとなっている。そのため、1度の作業で2倍の植え溝を掘ることができるため省力化及び作業能率向上が図られた。
経営体 9 1	パワーハーベスター、ロータリーカッター	今までにんにく収穫は、マルチ剥ぎ取りを行った後旧型の収穫機でにんにくを引き起こしその後手で収穫を行っていた。今回導入機械は、マルチ剥ぎ取り前に茎を刈り取り、その後収穫機でにんにく収穫を行うため、手作業がなくなり省力化及び作業能率向上が図られた。また、人員削減も図られた。
経営体 9 2	だいこん収穫機	大根収穫機を導入したことで、省力化及び作業能率向上が図られた。また、人員削減効果も得られたため、コスト低減も図られた。
経営体 9 3	アグリカ、ヘッドクリーナー	アグリカを導入したことで、長いも植付後の培土作業において従来の管理機に比べ大幅な省力化及び作業能率向上が図られた。また、ヘッドクリーナーは今まで使用していたものよりも長いもの首出し作業の安定性があがったため省力化が図られた。
経営体 9 4	大根引抜機、大根洗浄機	今までだいこん収穫は手作業で行ってきたが、今回導入機械を使用することで省力化及び作業能率向上が図られた。また、大根洗浄についても専用機械がなかったが今回導入機械によって作業能率向上が図られ、かつ人員削減効果が得られた。そのことによりコスト削減も図られた。
経営体 9 5	にんにく収穫機、サブソイラー、長芋植付機	今回導入のにんにく収穫機は今まで重労働だった収穫、調整作業が楽になり、人手、作業時間の省力化になる。サブソイラーは、重労働だったビニール巻き取り作業も楽になる。長芋植付機は、植付作業時大人数の人夫を使っていたが、植付機導入に家族作業でできるようになると思われる。
経営体 9 6	ロータリー	今までロータリーはオートヒッチでの装着のためトラクターとの着脱が簡単にできる。また、均平版の持ち上げにアシスト機能が追加されたため、メンテナンスの省力化が図られた。

経営体 9 7	トラクター (113ps)、三曹施肥機	今まで、トラクターは 50ps のものが最大だったが、今回導入機械によって大型化が図られたため省力化及び作業能率向上が図られた。また、三曹施肥機については、局所施肥によりコスト低減効果も図られた。
経営体 9 8	にんにく収穫機	今回導入のニンニクハーベスタは、マルチを張ったままの収穫ができるため、今まで利用していた収穫機と作業体系がかなり省力化された。また、今までの収穫機ではにんにくの茎葉処理を行ってからマルチを取り、その後収穫機で収穫という形だったが今回導入機械は、茎葉処理を行いながらマルチを張ったまま収穫できるため、作業能率及び人員の削減、接触機会の減少が図られた。また、それに伴いコスト低減も図られた。
経営体 9 9	にんにく収穫機	ニンニク収穫機を導入したことで、省力化及び作業能率向上が図られた。また、従来の機械に比べ人員削減と接触機会の減少が図られた。また、それに伴いコスト低減が図られた。
経営体 1 0 0	コンバイン (40ps)	今まで使用していたコンバインは 35ps のものでかなりの旧式のものだった。今回導入のコンバインは 40ps と馬力もあがり、且つ新型で作業速度も大幅に上がっていて、タンク容量も増加した。そのため、省力化及び作業能率向上が図られた。また、燃料等のコスト低減効果が図られると考えられる。
経営体 1 0 1	トラクター (104ps)、ロータリー、ハイクリブーム	トラクター、ロータリー、ハイクリブームを導入したことにより、今まで使用していた機械よりも大型のものを導入したため、省力化及び作業能率向上が図られた。
経営体 1 0 2	自動操舵システム	自動操舵システムを導入したことで、各種作業において省力化及び作業能率向上が図られた。また、今回導入の 2 台の自動操舵と既存の 1 台の自動操舵を使用して長芋及びごぼうの収穫作業をすることで、収穫作業速度が格段にあがり、且つオペレーターが熟練の者出なくても作業精度の高い作業が行えるため、効率があがる。播種作業等もハンドル操作に気を取られる必要がないため、播種機等の調整の精度があがるため品質向上効果も得られると考えられる。
経営体 1 0 3	サイバーハロー、肥料散布機	今まで代かきハローは 2.4m 幅のものを使用していたが、今回導入機械は 4.5m 幅となっており、省力化及び作業能率向上が図られた。肥料散布機については、従来所有しているものも継続し利用するが、今回導入機械はホッパー内に攪拌機能がついているため特に小さな圃場や有機肥料散布時に省力化及び人員削減効果が得られた。また、それに伴い、コスト低減と肥料が均等に攪拌されること

		で品質向上効果が期待できる。
経営体104	長芋収穫機	今回導入の長芋収穫機は振動機能が新たに追加されたことで、作業速度が向上した。また、それに伴い、人員削減効果とコスト低減も図られた。
経営体105	にんにく収穫機	ニンニク収穫機を導入したことで、省力化及び作業能率向上が図られた。また、従来の機械よりも人員が少なく済むため、人員削減効果と接触機会の減少コスト低減が図られた。
経営体106	スーパーSポール	軽量なポールのため作業能率が向上した。
経営体107	田植機	今回導入した田植機は、自動操舵による作業の安定側条施肥による適正施肥で減肥となり、作業能率向上、コスト低減が図られる。
経営体108	大根収穫機	今まで手作業で大根収穫を行っていたが、今回大根収穫機を導入したことで省力化及び作業能率向上が図られた。また、作業人員を削減することができたため、コスト低減効果も図られた。
経営体109	ニンニクハーベスタ	今回導入のニンニクハーベスタは、マルチ剥ぎ取りを行わずに収穫可能な機械で、大幅な省力化及び作業能率向上が図られた。また、人員削減も可能で、コスト低減も図られた。
経営体110	トラクター (132ps)、パラソイラー	今まで所有していたトラクターは 100ps のものが一番大きかったが、今回導入機械は 132ps で大型な為、同時に導入したパラソイラーとロータリー等の複合作業も行える。また、ロータリー等も今後作業幅が大きいものを導入予定で作業効率化を図る。
経営体111	ホールクropp収穫機	今まで、ホールクropp収穫機は所有しておらず、今回新規導入機械として申請した。導入機械によって省力化及び作業能率向上が図られ、コスト低減効果も得られた
経営体112	トラクター	今回導入したトラクターはごぼう畝幅と同じタイヤ幅のものを選択し、播種時に植え溝を踏みながら播種することでごぼうの品質向上が見込まれる。
経営体113	トラクター (33ps)	今まで玉ねぎのマルチはぎ作業は手作業で行っていたが、今回導入機械によって機械かが図られるため、省力化及び作業能率向上が図られた。また、人員削減も可能でコスト低減も図られる。
経営体114	ホイールトレンチャー	今までチェーン式トレンチャーを使用していたが、今回導入機械はホイール式で作業速度が1.5倍程度あがった。そのため、省力化及び作業能率向上が図られた。
経営体115	大根引抜機	今まで、手作業で大根収穫を行っていたが、今回導入機械によって、大幅な省力化及び作業能率向上が図られた。

		人員削減効果とコスト低減も図られた。
経営体 1 1 6	にんにく収穫機、マルチサブソイラー	今まで機械直装型のにんにく収穫機を使用していたが、今回導入機械は自走式で作業人員の削減効果が得られた。また、マルチサブソイラーはマルチ巻き取り機械を機械上部に取り付け可能で省力化及び作業能率向上が図られた。